



新発田市立紫雲寺小学校

学校だより 11月号

<http://shiunjies.shibata.ed.jp>

平成23年11月18日

石黒由美子さんと「少女ポリアンナ」

紫雲寺小学校長 小林 幹雄

雪の便りが聞かれる季節となり二王子岳もうっすら雪化粧をしています。学校も暖房を入れはじめました。子どもたちには一年で一番寒い（寒さを感じる）時期だと話しました。まだ体が寒さに慣れない分、風邪をひきやすい時節です。どうぞ皆様もお体をご自愛ください。

さて、先月の19日に、同和教育研究の発表会が無事終わりました。当日はたくさんの方々からお出でいただきました。授業では3年生、6年生の子どもたちが大活躍でした。真剣に考え、発表したり考えを書いたりする姿をたくさんの方々から褒めていただきました。授業学年の子どもたちだけでなく、下校時に会った子どもたちの挨拶がとても気持ち良かったとの言葉もいただきました。紫小の子どもたちの良いところをたくさん見ていただいた研究発表会でした。普段の子どもたちの姿を褒めていただいたことがとても嬉しかったです。また、準備や当日の運営ではPTAの方々からもご協力をいただきました。盛会で終わることができたのも皆様の心強いご支援のお陰です。ありがとうございました。

前向きに（ポジティブに）生きることの大切さは、よく言われることです。しかし、後悔したり、悪い方にばかり考えたりすることが多く、ポジティブに考えるのは口で言うほど簡単ではありません。しかし、10月に行われた市PTAの講演会で、「こんな人が実在するのか！！」とショックを受けました。

講師は、北京オリンピック・シנקロ日本代表の石黒由美子さんでした。石黒さんは、小学校2年生の時、交通事故に遭い、顔面粉砕骨折、眼球打撲、網膜剥離、手脚の骨折の大けがをしました。顔を540針、口の中を260針も縫うほどのけがで、医師から99.9%失明するとまで言われたそうです。そんな状態から、幼い頃に思い描いた、「オリンピックに出場する」という夢を実現させるのです。彼女を大きく支えたのは、母親の愛情と夢や願望を書く「夢ノート」だったということです。話を聞きながら、「少女ポリアンナ」の話に似ているなあ。と思っていました。後日、石黒さんの「奇跡の夢ノート」（NHK出版）を読んだところ、何と幼い頃に「愛少女ポリアンナ」というアニメを見てその主人公に魅了されていたというのです。ポリアンナは、「うれしいこと探し」というゲームをして、どんな困難なことでもプラス思考で乗り越えていくのですが、石黒さんの生き方は正にポリアンナを地でいっていると感じました。

「うれしいこと探し」とは、例えば、テストで60点だった時に、『100点だとそれ以上点数を上げることができないが、60点だとあと40点分も点数を上げることができる。点数が上がる分だけ何回も嬉しい経験ができる。』と考えるのです。いかがですか？ものは考えようと言いますが、こう考えると楽しくなりますね。何をノー天気なことをと思われるかもしれませんが、困難なときほどこのような考え方ができたらと思います。「うれしいこと探し」の発想をすると、お子さんへの一言も少し違った言葉になるかもしれませんね。

今年は、研究会前に窓ふきをしていただきましたので、例年行っているPTAの冬囲い作業は実施しませんでした。樹木の冬囲いは、高野用務手さんが着々と進めくれました。あとは玄関前の紅葉を残すだけです。

2学期もあと一ヶ月余、落ち着いて過ごすことができる時期です。じっくりと学習に取り組みませ2学期のまとめをしっかりと行いたいと思います。